

「研究の基礎」 （1 年）

担当 4 名

1. テーマ設定の理由

2・3 年生で実施する研究に向けて、1 年生はその基礎となる鹿角の文化や農産物等について広く学習させるとともに、研究の仕方を身につけさせることを目的にこのテーマを設定した。

2. 現在までの取り組み

5 / 1 0 オリエンテーション

5 / 2 4 鹿角市先人顕彰館の見学

5 / 3 1 鹿角の農産物について

講師：大越拓馬（鹿角市産業部農業振興課ブランド作物推進班）

6 / 2 1 毛馬内盆踊りについて

講師：馬淵大三氏（株式会社丸久代表取締役）

7 / 1 2 鹿角の温泉について

講師：茂林航平氏（鹿角市産業活力課観光交流班）

7 / 1 9 毛馬内盆踊り講習会



3. 今後の取り組み

9 / 6 スライドの作り方講座



「毛馬内盆踊り」「鹿角の温泉」「そば」の3つのグループ別に研究していく

講座 No.1 「つるし雛」

担当 2 名

1. テーマ設定の理由

毛馬内地区にはつるし雛作成の活動をしているサークルが複数あり、3月にはこもせ通りで「つるし雛まつり」が開催されている。地域の文化についてよりよく知りたいと思い、このテーマを設定した。また、「つるし雛」の歴史と、つるし雛の活動で有名な地域について調査をする。現在は公開研究発表会や実際のつるし雛まつりでの展示を目指して、つるし雛の製作に挑戦している。

2. 現在までの取り組み

- 5 / 1 0 オリエンテーション
- 5 / 2 4 講師紹介 基本縫いの練習
- 5 / 3 1 座布団の花作成
- 6 / 2 1 座布団の花作成
- 7 / 1 2 チューリップの作成

3. 今後の取り組み

発表までに、つるし雛の作品製作をあと3点ほど行う予定である。また、並行してつるし雛の歴史や他地域のつるし雛について調査し、結果をまとめる予定。

写真は小花を作成している様子。



講座 No.2 「鹿角茜染伝承隊」

担当 2 名

1. テーマ設定の理由

奈良時代から鹿角に伝わる紫根染と茜染は、ムラサキとアカネという植物の根を使って染める草木染です。古代鹿角紫根染・茜染を施した布は、年を重ねるほど色鮮やかにその美しが増していきます。明治になって化学染料が入ってくると、鹿角の紫根染・茜染は衰退し、途絶えてしまいました。それを大正初め頃に復活させたのが栗山文次郎氏でした。その後人間国宝にもなられ、息子の栗山文一郎氏が受け継ぎ、平成 3 年まで古代鹿角紫根染・茜染を守り伝えました。

平成 25 年に古代鹿角紫根染・茜染の優美な色を復活させるために鹿角紫根染・茜染研究会が立ち上げられ、次世代を担う子どもたちや地域の方々、そして全国のたくさんの方々に鹿角紫根染・茜染の魅力を伝える活動を行っています。会員の方々が普及活動を行っています。時間も経費もかかる活動です。また、体力も必要ですが、普及活動にあたっている会員の高齢化が大きな課題となっています。また、盛岡藩南部領域内の茜染は十和田高校のある鹿角市毛馬内と花輪地区でさかんに行われ、特産品としても知られていました。

そこで、本校のある毛馬内にゆかりの深い茜染に着目し、高校生の力で鹿角茜染の素晴らしさを多くの方々に伝える活動を実践していこうと、このテーマを設定しました。

2. 現在までの取組

5 / 1 0 全校でのオリエンテーション

5 / 2 4 本講座の主旨と活動計画

5 / 3 1 鹿角紫根染・茜染学習会

(講師：鹿角紫根染・茜染研究会 会長 關 幸子氏)

6 / 1 1 鹿角茜染体験（本校調理室）

6 / 2 1 湯通し・灰汁汁作り（～24）

7 / 1 2 下染の学習と今後の予定

7 / 2 1 下染（1回目）、7 / 2 5 下染（2回目）、8 / 2 4 下染（3回目）

8 / 1 鹿角紫根染・茜染工房の見学と關先生からの講話



3. 今後の取組

9 月 日本アカネの根の採取、彩る街体験への補助、各種研究活動

10 月 古代式鹿角茜染体験、家庭クラブ研究発表大会出場

11 月 鹿角茜染つまみ細工、地域伝承活動

12 月 公開研究発表会



講座 No. 3 「鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する」

担当 2 名

1. テーマ設定の理由

鹿角市は十和田八幡平国立公園があり、雄大な自然を身近に感じることのできる地域です。その自然は生活と密着しており、観光資源としても重要なものとなっています。我々はこの鹿角市に生息する特徴的な動植物や農産物について学び、その生態を明らかにすると共に資源としての利活用についても検討します。

チーム A 「米代川流域に生息するサンショウウオの生態に関する調査」

チーム B 「鹿角市におけるツキノワグマによる農作物の食害に関する調査」

チーム C 「学校又は自宅周辺に生息する野生動物の生態に関する調査」

2. 現在までの取組

5 / 1 0 オリエンテーション

5 / 2 4 研究テーマの検討

5 / 3 1 研究テーマの決定

6 / 2 1 研究計画の作成

7 / 1 2 インターネットを活用
した情報収集



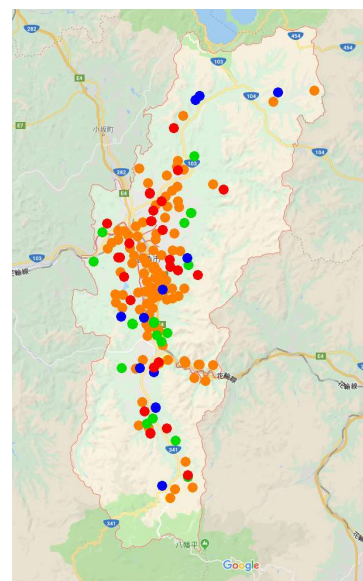
チーム C 撮影されたツキノワグマ

夏季休業期間中

チーム A : 八幡平ビジターセンターでの研修と
野外巡検（大雨のため延期）

チーム B : 新聞等を利用したツキノワグマによ
る食害のデータ収集

チーム C : 自宅周辺への屋外型センサーカメラ
の設置



チーム B クマ食害マップ（令和 3 年）

●:果樹 ●:牧草・飼料等
●:野菜 ●:目撃・痕跡等

3. 今後の取組

チーム A : 昨年作成したトラップの改善と実際

チーム B : 令和 4 年度版クマ食害マップの作成
と過去 3 年分のデータとの比較検討

チーム C : 撮影された動画のデータ整理と撮影
方法の改善策の検討

講座 No. 4 「水産資源の活用法を探るⅤ」

担当 2 名

1. テーマ設定の理由

鹿角地域には本流の米代川や、その支流である大湯川や小坂川などたくさんの有名河川があります。これらの川には、既に地域活性化に一役買っている春のサクラマスや夏の鮎だけではなく、他にもさまざまな魚が生息しています。それらをどのようにしたら地域活性化に繋がられるかを探究することで地域の魅力を再発見できると考えました。また探究活動を通して発見した地域の魅力を発信することで、この活動自体が地域活性化に繋がることも期待しています。

2. 現在までの取組

- 5 / 1 0 全校でのオリエンテーション
- 5 / 2 4 過年度までの本講座の探究・発表内容紹介
- 5 / 3 1 本講座内での各生徒の探究テーマ設定①
- 6 / 2 1 本講座内での各生徒の探究テーマ設定②
- 7 / 1 2 フィールドワーク用備品整備
- 8 / 1 体験学習（鹿角ふるさと学舎）



3. 今後の取組

- 9 月 フィールドワークⅠ（鹿角地域の外来魚の生息状況調査）
- 10 月 フィールドワークⅡ（十和田湖のヒメマスなどについて）
- 12 月 公開研究発表会

講座No.5 「建設業による農業の六次産業化」

担当 2 名

1. テーマ設定の理由

六次産業化について理解を深め、鹿角地域の建設業者がどのように六次産業化に取り組んでいるかについて、生産・加工・販売までを調査し、流通の観点から考察する。

2. 現在までの取組

5 / 1 0 オリエンテーション

5 / 2 4 調査内容の確認・グループ編成

5 / 3 1 グループごとに調査

(調査項目)

- ・六次産業化の背景（原因）
- ・六次産業化発展の経緯
- ・六次産業化の目指すもの

6 / 2 1 前時の調査継続

7 / 1 2 各グループ「六次産業化」についての中間発表
(株)村木組の六次産業化の内容調査

8 / 1 校外実習 (株)村木組 農事部 しらかば農園
工場見学・農業体験（雨天のため農場見）



3. 今後の取組

9 / 6 外部講師による講義

(株)村木組 代表取締役 村木通良氏による講義



〈菊芋畑見学〉

- ・調査、講義内容等の整理

- ・発表内容をパワーポイント化
- ・発表練習
- ・研究発表



〈種まき機の説明〉

講座No.6 「鹿角PR動画制作2022」

担当2名

1. テーマ設定の理由

鹿角市のふるさとCMを作成し、鹿角の魅力を動画にしてPRします。例年、秋田朝日放送「秋田手作りふるさとCM大賞」に鹿角市代表として参加していますが、今年度は鹿角市の他団体からもエントリーがあるため、まずは鹿角市の審査会を目指し、ふるさとCM大賞への出品、入賞を目指します。また、ふるさとCM制作の過程も動画にして制作し、12月の公開研究発表会での上映を予定しています。このような活動を通して、鹿角の魅力発見と情報発信の手段についての見識を深めていきたいと思います。

2. 現在までの取組

- 5/10 オリエンテーション
- 5/24 講座紹介、昨年度までの例示
- 5/31 グループ分け・今年度のテーマ設定①
- 6/21 今年度のテーマ設定②
- 7/12 今年度のテーマ設定③



3. 今後の取組

- 9・10月 CM制作・鹿角市審査会
- 11月 AAB公開審査会（※鹿角市審査会の結果による）、PR動画制作
- 12月 公開研究発表会